



◀改善ミーティングの報告会の様子



自ら考え、自ら動く職員を目指す

JAあきた白神

一昨年の10月より始まったCS（顧客満足度）改善プログラム。JAの本店、各支店では隔週1回の「週次改善ミーティング」、隔月1回の「月次ミーティング」などを通してお客様に選ばれるJAづくり、店舗づくりに励んでいます。

11月2日に行われた「CSリーダーミーティング」では、各店舗のリーダーが参加し、取組状況や今後の改善点などについて話し合いました。また、24日に行われた本店職員での「月次ミーティング」では、このプログラム導入当時の再確認というテーマで話し合いが行われ、参加職員からは「お客様目線に立って対応することが大切」といった提案がされました。CSサポーターからは「やらされていると感じるのではなく、さらなるCS向上を目指して職員全員が『自ら考え、自ら動く』ということを継続していけるようサポートしていきます」と今後に向けて語ってくれました。



▲リーダーミーティングの様子

笑顔満開の収穫体験

青年部

収穫する楽しさ、食べ物を大切に作る心を育ててもらおうと、JA青年部浅内支部は11月14日、『おもしろえで農業・イモ掘り大会』を能代市河戸川の圃場で行いました。この日は、青年部員5人と能代市第一保育所、浅内保育所の園児ら15人が参加し元気にサツマイモ掘りを行いました。

青年部員から掘り方を教わりさっそく収穫体験に挑戦。長靴・軍手姿の園児たちは、自分の顔よりも大きいサツマイモを掘り起こすと「こんなに大きいのがとれたよ!」、「こんなにいっぱいとれた!」など元気な声を響かせ、袋いっぱいサツマイモを入れ収穫の喜びを味わっていました。



▲青年部員とサツマイモを収穫する園児



▲誤飲の対処法について真剣に説明を聞く参加者

万が一の対処法を学ぶ

共済課

JAあきた白神主催の「赤ちゃんと子どものためのケア講習会」が11月12日、南部公民館で開かれ、6組19人の親子が参加しました。

講習会には、NPO法人ACFI（アクフィ）の佐々木理佳氏を招き、乳幼児の不慮の事故や急病の際の対処法を学びました。佐々木氏は、乳幼児の死亡原因で不慮の事故が2位になっていることに触れ「大人の注意で防げる事故が大半を占めている」と注意を呼び掛けました。また、誤飲などで息ができなくなった対処法として人形を使った実践や心肺蘇生法、AEDの使い方を学び、参加者はもしもの時に備え真剣に実践を行っていました。

